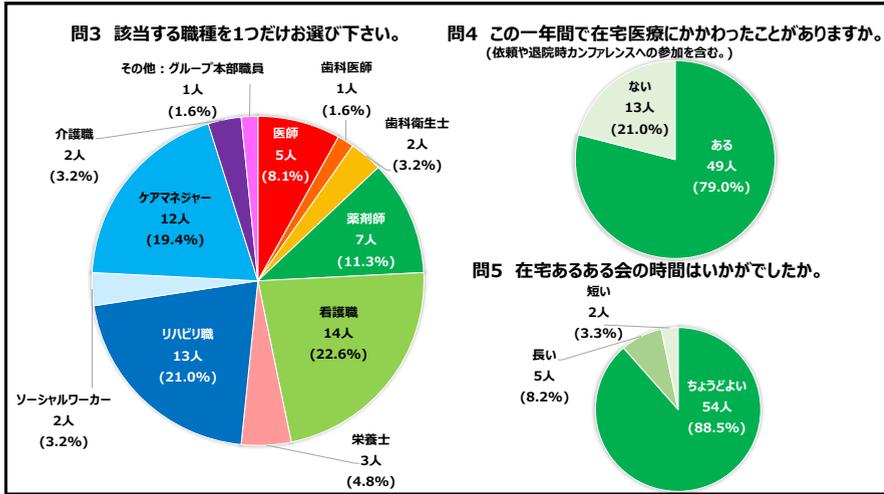
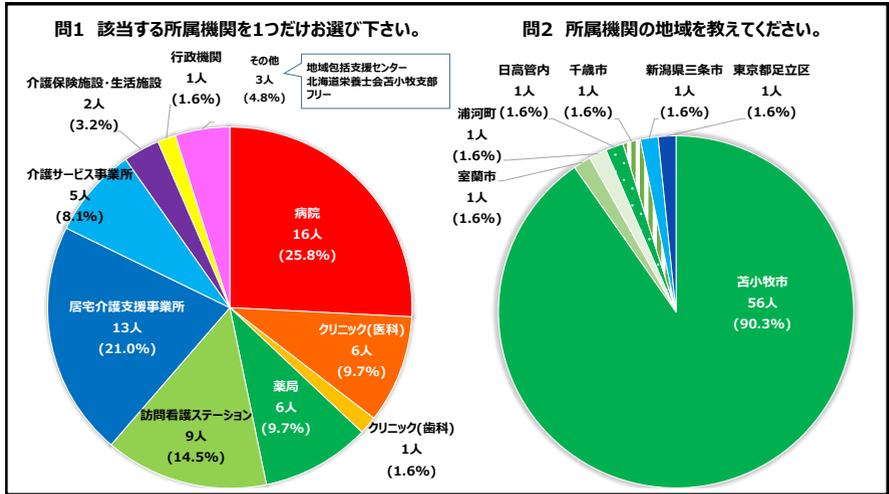


令和6年9月3日(火) 開催

第9回 在宅あるある会 アンケート結果

参加者 96人
回答者 62人
回答率 64.5%



問6 講演『在宅医療におけるリハビリテーション専門職の機能と役割』は参考になりましたか。

問7 問6の回答を選択した理由について具体的に教えてください。

理由	人数	割合
とても参考になった	39人	63.9%
やや参考になった	19人	31.2%
どちらともいえない	3人	4.9%

- もう少し説明内容をわかりやすくしてほしいかった。
- 事業所の種類によるリハビリの特色などが分かりやすく、疾病によって低下した機能を出来るだけ早くアプローチしていく事が重要だと改めて思った。
- 様々な視点から地域との関わりを学ぶことが出来ました。
- 各専門職の役割のおさらいができた。
- 訪問看護ステーション所属のリハ職とで制度上の違いがあることを知れた。苫小牧の訪問リハを必要としている人に対してリハ職が足りないという現状も知れた。
- 介護と医療のサービス内容の違いが把握できて良かったです。

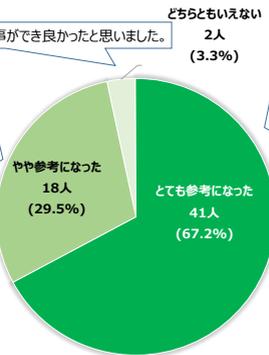
- リハビリの概要から地域包括ケアシステムについて、外来や訪問リハなど様々な分野の紹介と役割などをわかりやすく説明してくれていたため。
- 目標に沿ったリハビリ、日常生活での困り事へのアプローチの仕方、多職種連携等。
- 普段リハ職と関わりの少ない職種の方々にリハビリの概要や仕事内容を知ってもらえる機会になり良かったと思う。
- 訪問看護事業所間での連携も取れるとの事でSTがいない事業所でも他事業所への紹介して頂けるとの事で大変参考になりました。
- セラピスト視点からの困りごとが理解出来た。
- 麻痺や転倒だけではなく日常生活の不安や会話に支障があることも相談の対象になるということなどでケアマネだけの視点よりも多くの人に相談する必要があることがわかりました。
- 在宅でのリハビリ技術や、取組み内容がよく理解できました。
- 在宅の情景を思い浮かべながら整理できた。
- 業務で一緒にいることはあってもそれぞれの役割について詳しく分からないままサービス介入になってしまうのでいい機会に話を聞けた。

問8 実践報告 訪問看護ステーションに所属する『理学療法士の立場から』・『作業療法士の立場から』・『言語聴覚士の立場から』は参考にりましたか。

問9 問8の回答を選択した理由について、具体的に教えてください。

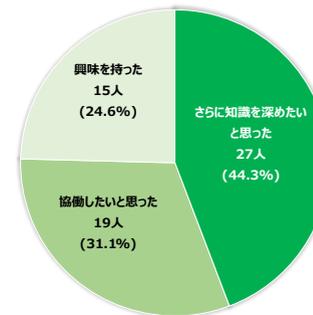
・さまざまな立場から現場の声を聞く事ができ良かったと思いました。 2人 (3.3%)

・PT、OT、STのそれぞれの役割やアイデア、工夫について参考になった。今後、仕事上も積極的に関わりたいと感じた内容であった。
 ・言語聴覚士さんの仕事をあまり理解していなかった為、知る事が出来て良かった。他の職種の方のある事例も知る事が出来たため。
 ・実践されている内容を知ることができ参考になりました。
 ・訪問看護ステーションの業務が、多岐にわたっているのが分かった。



- ・専門職としてのスキルを發揮しつつも、それだけに固執せず、幅広く柔軟に対応していくことが大事だとわかりました。
- ・それぞれの立場でのリハビリ、多職種を巻き込んで病状管理から、ご家族の介助方法まで相談に乗って下さる等、事例を聞かせていただいたのも参考にりました。
- ・現実な事象をいしていただき、課題や苦慮されている内容を知ることができた。
- ・現場のあるあるでしたので共感できましたし、セラピストとの連携に役立てられると思いました。
- ・OTさんPTさんのラインはあまりないということ。退院時に手すりや住宅改修でつげず、レンタルでやってみるというのは同感です。
- ・STさんのアイデアによる協働の紹介が素晴らしいと感じました。
- ・言語聴覚士の活動内容やあるある事例は、とても参考になりました。患者さんからの嚥下に対する要求も多く、もっと増えたら嬉しいところですが、看護師がもっと連携して出来ることが増えるの良く感じました。
- ・多職種連携について自分の取組みを振り返りができ見直す機会になりました。
- ・病院内のリハ職と違い、地域のリハ職は他のリハ職の仕事内容が見えづらいため、あるある事例も含めて見聞が広がった。
- ・在宅とときどき病院を進めるうえで、リハビリスタッフは必要だと思います。
- ・指示書は大事

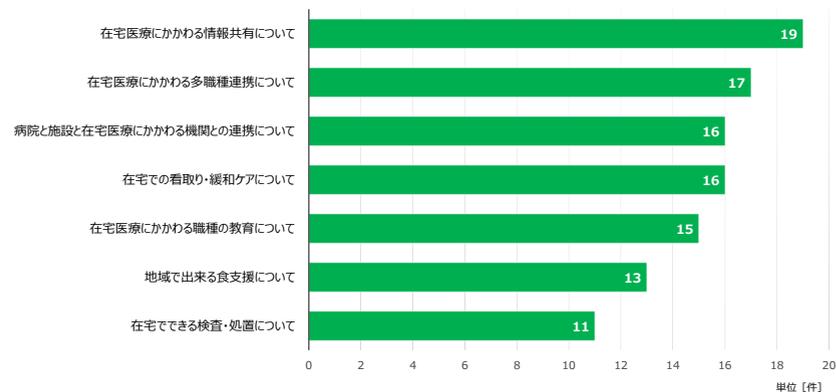
問10 今回の在宅あるある会に参加し在宅医療におけるリハビリテーション専門職との協働についてどう思われましたか。



問11 今後、在宅医療におけるリハビリテーション専門職(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)にかかわってほしい(かかわりたい)ことを教えてください。

- ・在宅生活を続けたいと希望される利用者様が、より長く在宅生活を維持していける様、今後も継続し一緒に関わっていただきたいです。
- ・在宅難民を作らない様にして欲しいと思いました。
- ・生活全般の課題に対して、積極的に関わっていただき最新の情報も提供していただくとありがたいと思います。
- ・利用者さんに必要性を感じた時は協働したいと思った。
- ・利用者のニーズに合わせ積極的に介入してもらえたらと思います。
- ・利用者の方に対して、ケアマネジャーがリハビリの導入を迷う時に相談できる場や機関があると良いです。
- ・在宅医療の話を入院→病院で退院に関わるリハ職にも伝えて欲しいです。
- ・退院や在宅復帰時に重に関わり、継続して在宅を支えていく。状況が変化した際、密に関わる関係づくり。
- ・通所介護(D.C含む)の個別機能訓練担当職への情報提供。
- ・訪問看護ステーションは増えてきていますが、訪問リハビリ技師がまだまだ少ないということで、看護師との連携を強化し、役割分担出来れば良いのかと思います。
- ・がん疾患の方のADL、精神的な支援。
- ・在宅患者の癌リハビリテーション。
- ・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の皆さんが専門外(例えば嚥下訓練など誤嚥性肺炎の予防など)を多岐にわたって関わって頂きたい。
- ・嚥下が難しくなってきた患者に対して食事などの工夫ができるか、他にもできることがあるか。
- ・嚥下の為にお薬の剤形を相談したり、副作用についての共有の必要がある時感じた。

問12 今後、開催してほしいテーマ研修はありますか。※複数回答可



問13 今後、在宅あるある会で取り上げて欲しい内容があればご記入ください。

- 在宅での看取り、介護と医療の連携
- 高齢者の終末期医療について
- 今後寝たきりになった場合、核家族において在宅医療は限界があると思われる。どこまで可能であろうか？
- 精神疾患を持つ患者さん、利用者さんの対応や特性、支援について学びたいです。(鬱、統合失調症、双極性障害など)
- 主治医をまじえた担当者会議の在り方について
- 介護保険のサービスだけでは限度額オーバー等あり、独居等在宅生活を維持して行くのが難しくなっており、有償ボランティア等地域で広めていく必要があり、使えるサービス等取り上げて欲しいです。
- 最新の福祉用具や自助具などの紹介。
- 機能的医学について

問14 その他、在宅あるある会についてのご意見ご質問があればご記入ください。

- 多職種連携はまず相手がどんなことをしているのかを知ることが第一歩だと実感しているので、定期的に他職種の講演があるのは大変勉強になります。
- 在宅医療について、多職種の活動を聞いてよかった。